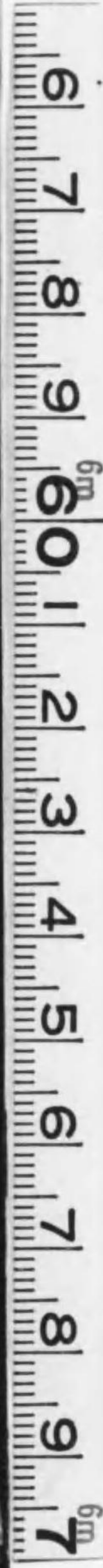


廣
島
縣
日
產
業

特 244
963



廣 島 縣 產 業 獎 勵



始

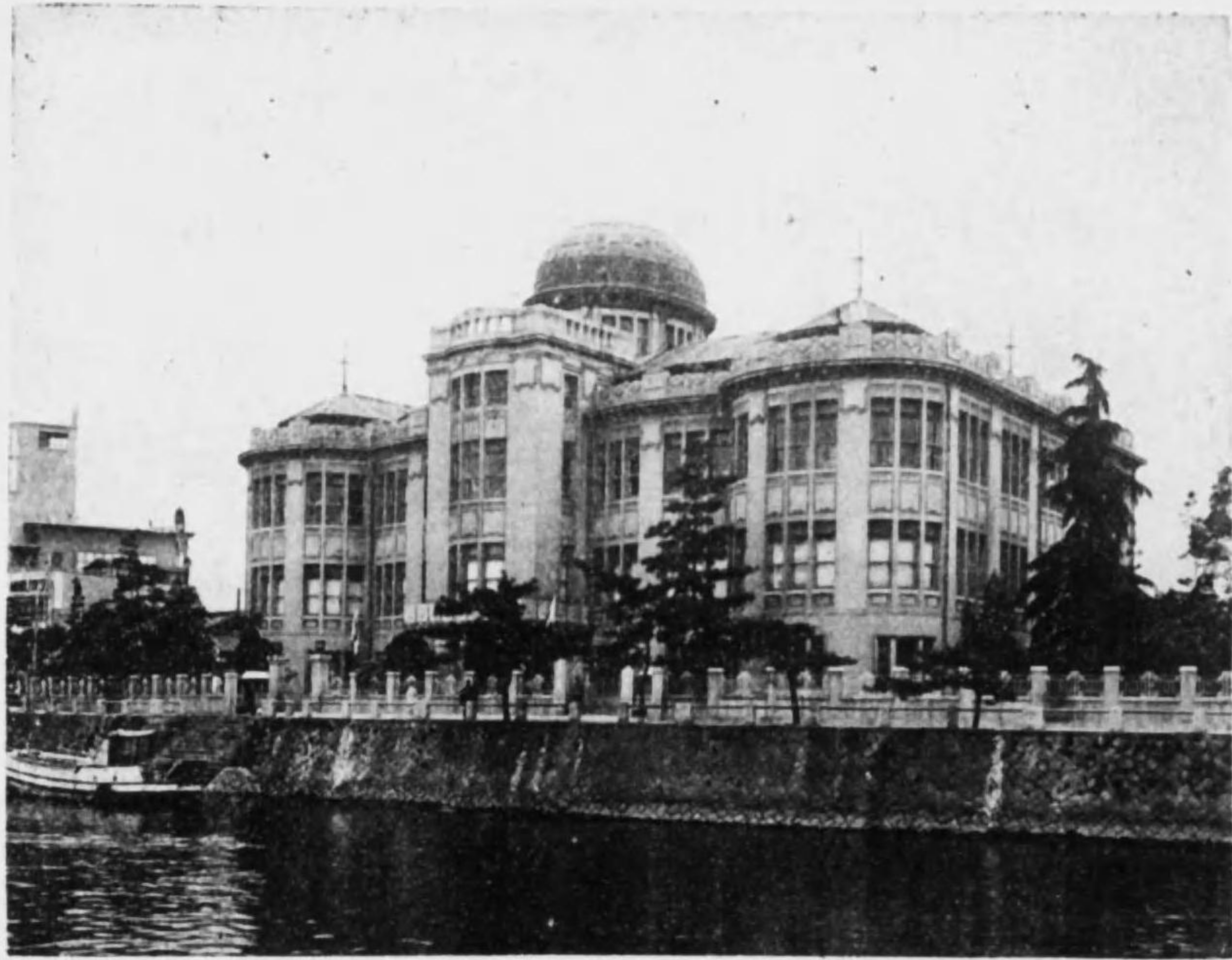


特244
963



島
縣
の
産
業





館 勵 獎 業 産 縣 島 廣

産業及通商貿易の
助成發達のため
常に内外に於ける
經濟事情を究め
商取引の改善指導
をなすとともに
之れが紹介斡旋に
努むるものであり
ます



はしがき

聞きより眺めにあかぬ巖島

見せばやと思ふ雲の上人

—— 關白秀吉 ——

觀光

日本三景の随一「安藝の宮島」……正しくは

巖島でありまして、觀光に生きるいつくしまは、やはり宮島

さんと申す方が、よほど親しみが湧き出るやうであります。

波にゆめく朱ぬりの社殿と、その大鳥居は宮島のシンボル

であります。その風情は全國津々浦々は申すに及びません。

遠く、外國の觀光客でありまして、わが國を訪れる者は、か

ならぬや、その一日を宮島のためにさき、その喻へる方なき

景觀美にうたれるであります。

わが廣島縣は、この宮島や、その昔萬葉の歌人に、好詩題

を提せし令また、國立公園として、多くの遊人墨客の杖を曳

く「瀬の浦」をはじめ、いくたの、大小の島々を含む、瀬戸

内海の情緒に、加ふるに近頃漸く人口に喰炙せらるゝに至り

ました縣北山縣郡の「三段峽」や、比婆、神石の兩郡に跨る

「帝釋峽」の峽谷美を持ちまして、觀光地廣島縣としても亦

著名であります。

産業 廣島縣はまた、安藝・備後の二ヶ國五市十六郡、面積五百四十八方里に人口百八十萬人を治め、自然の恵みと、縣民の勤勉心と創造力は、産業方面にをきましても、農耕に 林業に、畜産にまた、商工に各方面いづれも異常なる發展を遂げ、總生産額三億七千九十六萬圓の巨額に達し、全國第十位の地位を占めて居ります。

まことに中國西部日本の雄縣として、恥しからざる實力を示してゐるのであります。

廣島縣の生産的地位

(昭和十一年、單位千圓)

區分	總數	農産	畜産	蠶糸	林産	水産	鑛産	工業	現住戸口	
									一人當	一戸當
全國	1,905,544	3,031,115	2,100,499	883,261	398,799	571,777	650,337	13,237	275,111	1,121
廣島縣	307,211	75,275	8,840	4,612	9,218	7,667	1,302	224,062	102	270
同順位	10	16	10	35	15	23	32	9	33	38
比	100.0	19.9	1.4	4.6	2.0	3.0	3.4	69.7	—	—
廣島縣	100.0	20.3	2.4	1.3	2.4	2.1	0.4	71.1	—	—

なほ本縣の産業状況を産業別に觀まするに、工業方面がもつともよく發達して全國第九位の地歩を示して居ります。昭和十一年中の生産額は二億六千四百萬圓でありまして總生産額の約七割を占めてをります。

農、蓄業もまた概して全国的に優位であり、ことに、蓄産は全國に著名であります。兩者を合して八千四百十一萬圓であります。つきに林、水、蠶業の順位で鑛業がもつとも不振の状態であります。

またこれらに就業する職業人口を觀まするに本縣の有業人口は八十二萬人でありまして、農業に従事するものが、全數の四割八分(三十九萬四千人)つきに商業(一割七分)工業(一割六分)と申す順序であります。

しかしながら本縣の産業は總じて、あらゆる經濟資源乃至好條件に恵まれながら、なほ且つ伸張力が鈍いやうに思料せられます。ことに現住戸口一人あたり乃至一戸あたり生産力は、他府縣に比して、非常に遜色があるやうであります。これには諸種の原因が錯綜してゐることでありませうが、一つは縣民に概して企業心に乏しいのと、偷安の氣風は、やがて、産業的に大きい影響をもたらしたものでありませう。

産業是 ことに縣は多年産業の改善發達のため、多くの努力を傾注してをります。即ち大正六年には産業調査會を設置して、産業方針を樹立し、越えて大正十三年に、時勢の變遷と産業の趨勢に鑑み、産業調査會を再設して、産業及經濟機構とその發展性を再吟味し、縣産業是を確立いたしました。また近くは産業調査委員會を組織して、産業五ヶ年計畫の大綱を樹て、着々これが實現の緒に就きまして、消費縣より生産縣へ。農産縣より工業縣へと、期待せらるゝことは、縣民不斷の努力としてまことに慶幸に堪へない次第であります。

しかしながら、國際情勢の變遷は、産業的にも亦個々別々により全体主義へと移向し、平、戰兩時の心構へをもつて、産業の再編成を行ふべきときに際會して参りました。ことに多くの軍事機關を包擁する本縣にをきましては、一層その感を深ふするものであります。

林業

【概況】 本來廣島縣は山國でありまして、北境に中國山脈があり、その支脈は東北より西南に走り、縣内のいたるところに小山や、丘のやうな低い山が、連らなつてをります。そして總面積の八割三分

といふものは、山林と原野であります。しかも地味の肥えた部分が少くて、その大半は山陽特有の眞白な花崗岩の山膚を露はして、とくに海岸部には禿山が多く、全国第一と稱せられてをります。その面積も七千町歩におよびまして、旱害や水害を蒙ることも多いと言はれてをります。したがって山を治め、水を治めること即ち治山・治水といふことは、本縣の最も重要事項となつてをります。しかし中央部の方面には、赤松の生育がよく秋の味覺をそゝる

松茸 はこの方面から多く産出され、最近の統計では數量百五十四萬斤、價額五十二萬圓に及び、産額は兵庫・京都について全国第三位を誇つてをります。その外奥部地方の木炭や川材等を併はせて、林産品は九百十三萬圓でありまして、總生産額の約二分にあたります。面積からいへば、全国第十一位といふ大きさの割には、振はないと申さねばなりません。

林野面積

(昭和十一年現在、單位千町歩)

區分	總面積	立木				無立木地
		總面積	針葉樹	木	地	
全	全	全	全	全	全	全
本縣	24,186	22,036	5,659	9,008	5,759	1,533
同順位	11	11	3	28	8	3
比全	100.0	100.0	24.9	42.8	27.4	7.0
本縣	100.0	100.0	46.1	19.8	33.2	0.7
同順位	11	11	1	1	1	1
比全	100.0	100.0	46.1	19.8	33.2	0.7

畜産

【概況】 北東部地方の神石・比婆・雙三の三郡には、牧野や綠草が多く、畜産の總額は八百八十四萬圓に上りまして、本邦有数の畜産縣として有名であります。とくに

牛 は年々二萬頭を生産し、その産額、資質ともに全国第一と稱せられて居ります。古くから神石牛の名は、和牛の最良種として、あまねく、天下に知られてをります。

さきに畏くも大正天皇の御大葬の際、御車を曳き奉つた牛は神石郡と、比婆郡から生産したものでありまして、その内一頭はいま尙畜産組合に飼育されてをります。この郡の仙養ヶ原の綠ゆるやかな野原に、眞黒な牛を放牧してゐる平和な風景はまことに詩的なものであります。そのほか

養鶏 も亦ちか頃長足の普及をして、飼養戸數八萬八千、生産額三百五十七萬圓といふ數字を示し、全国第六位に進んでまゐりました。又縣下總じて農業經營に有畜を加味する傾向が勃興して來ますことは、誠に喜ばしい現象と存じます。

農産

【概況】 さきにも申し述べましたやうに、縣内には山林や、原野が多く、耕地面積は田畑合せてわづかに十一萬町歩といふ状態で、全面積の一割三分にあたります。随分無理をして、山の頂上まで切りひらいて或は水田に、或は畑にしてゐる風景を各地に見受けられますが、かゝる無理をしてなほ且つ、農家の一戸あたりは、わづかに五反七畝といふ耕作で、全国平均の半分にも過ぎない状態であります。したがって本縣では五反未満の農家が左のやうに、農家戸數の半數以上を占め、のみならず全數の八割四分といふものは、一町未満の耕地に稼耕して居るわけでありす。

これを全國平均の五反未満の農家が全数の三割四分、一町未満が六割八分に較らべますれば、誠に過少といふほかはありません。世に經濟の豊かでない百姓を五反百姓と申しますが統計から觀れば、正に廣島縣の百姓は半分以上が五反百姓と申されませう。

耕作耕地廣狹別農家戸數

(昭和十二年)

區分	總數		五段未満	五段以上 一町未満	一町以上 二町未満	二町以上 三町未満	三町以上 五町未満	五町以上
	本縣	全國						
總數	一八二、四六八	五、五九七、四六五	一、一八九、六三五	一、一九四、〇一八	一、二六二、一〇六	三〇〇、六一五	一、二六、五四〇	七、七、八二九
率比	100.0	100.0	六五.〇	六.五	七.〇	一.七	一.五	四.〇

耕地所有の廣狹による農家戸數の區別

(昭和十二年)

區分	總數		五段未満	五段以上 一町未満	一町以上 二町未満	二町以上 三町未満	三町以上 五町未満	五町以上
	本縣	全國						
總數	一〇三、三六三	一〇三、三六三	一〇三、三六三	四三、二六一	一、二九四	六八八	七〇九	一
率比	100.0	100.0	六一.二	二五.五	一.二	六.七	六.八	一.〇

しかし、幸に氣候が適順でありまして、米・麥作の外に北部地方には、葉煙草・蒟蒻・南部沿海地方には、柑橘・蘭草・葉煙草・除虫菊・薄荷・葡萄等の作物を、また都市の近郊地には盆栽その他園藝農作物を栽培してをります。これらの農作物が、農家の經濟を需ほして居ることは甚だ大きいものがあります。

米 本縣の農産物の大御所とも稱すべき米は、農産總額の約五割強を占め自然米價の騰落が農家の經濟に重大なる影響をもたらすべきは、まことに宜べなりと申すべきであります。しかしながら本縣は、耕地の狭い關係上、年産額約百二十八萬石で未だ百八十萬縣民の需要を充すに足らず、年々約六、七十萬石を縣外から移入してゐる状態であります。古くは本縣米がポロ米とけなされましたが、最近産米の改良は、誠に顯著なものがあつまして、全國七十四の銘柄中第十二位に躍進してまゐりました。ことに

酒造米 は内地は勿論遠く米本國・布哇・臺・鮮・滿・樺太等にも進出して居ります。

蘭草 はその年産額及作付反別とともに全國第二位で、備後蘭の名はあまねく知られてをります。これを原料とする



疊表

は年額四百二十二萬圓に及び、品質産額ともに日本一と謳はれます。備後表といへば疊表の代名詞の如き感を、世人に與へてをります。まことに故なきことと申されませう。畏くも皇室の御慶事または、御大典の際にはその御用命を本縣に拜することが度々であります。

柑橘類

は年額二百十五萬圓で、その産

額は日本で第四位であります。早生温州や普通温州並にネーブルは、その品質において、京阪神及京濱市場を断然リードして、あまた食客の歓迎をうけて居るやうであります。

米國向輸出蜜柑も多量に上つてをりますが、これらを原料とする蜜柑罐詰は、本縣の創案でありまして、全國の約六割を占め、内地は申すに及ばず、年々歐米市場に二十五萬函を輸出してをります。その風味と芳香は外人食通をこよなく喜ばしめてゐるとは、誠に愉快なる誇であります。

また、秋季柑橘薫る頃、産地大長や川熊等に遊ぶ人々は、満山黄金の波をうたし、しかも波靜かな瀬戸内海に影を寫す姿は、恰も詩の如きものがあります。

廣島柿 海の牡蠣とともに廣島柿は凡く世人に知られております。味のすぐれた西條柿は、岐阜の富有柿に對抗して、サワシ柿として愛好されてをります。産額は六十四萬圓で全國第三位であります。これが加工品干柿は二十一萬圓に上り全國第一と稱されます。柿澁も二萬圓の産額を有し、工業用或は酒の清澄用として重視されてをります。

廣島市の柿羊羹は土産物として、山陽道を汽車旅行する人には、忘れられない買物の一であります。この外桃や・葡萄や・無花果・枇杷等の果實類も既に知られて居ります。

蒟蒻芋 主として東北部の神石・甲奴郡に産し、年額百



二十四萬圓、全國一と稱されます。最近の研究によれば、その主成分をマンナンと申して、營養價值も多く且つ消化も非常に良好であることが明になつたのであります。この特殊産業をもつ本縣のため誠に喜ばしい發見と存じます。

蒟蒻芋は食用の外織物の糊付用そのほか、工業用や藥用等用途はかなり廣いやうであります。

葉煙草 北部地方に産します。在來種の備後葉は、「エジプト」に輸出して、エジプト煙草に混ぜられたり、また「なでしこ」等のきざみに用ひられます。南部地方の米葉は、パツトやエアースツプ等の兩切に、なくてはならないものであります。その年額百九十六萬圓全國第六位と申されます。

除虫菊 北部寒冷な地帯の蒟蒻芋にたいし、南部沿海、島嶼部地方には初夏の頃眞白な除虫菊が咲き亂れてゐるところを所々に見受けられるであります。年額九十三萬圓、北海道につく全國第二位の生産地であります。主に米國方面に輸出されるやうであります。

蠶 糸

本縣における養蠶業は起原、極めて古く、醍醐帝の朝既に上糸國の一に選定されたと傳へられてをります。中途廢れいまや年額二百八十五萬圓全國第三十六位と申す、極めて不振の有様であります。しかし優良繭の産地として知られ、且つ



主として農家の副業として經營せられ、農家の經濟力培養のため極めて重要な副業と申さねばなりません。

副業

前にも申しましたやうに、本縣は耕地面積が極めて狭少でありますから、農業經營は頗る多角的に經營せられ、自然副業方面も多種多様であります。即ち農表をはじめ、備後地方の木綿耕に木綿縮、福山地方の蘭、麥稈細工及繩製品、また備後奥部地方の蒟蒻切干・矢野の蠶・熊野及川尻の毛筆・或は大崎南島の檜皮の繩・備後沿岸部の柿澁・落合の桐下駄等約二十萬圓の副業生産品があります。

なほ向後副業品は、吠・苳・繩類とか養鯉・養兔等未だ本縣に比較的發達の餘地のある方向に伸びて行くものと存じてをります。ことに兎の毛皮は輸出品として歐米に輸出されるほか、軍需品としてますます發展性あるものと信じてをります。

水産

【概況】 瀬戸内海に面した本縣の水産業は、地勢の關係上漁場が極めて狭隘であります。一平方哩につき漁業者は四十八人でありまして、瀬戸内海の平均三十一人、全國平均の十六人に比べまして、甚だ稠密であります。即ち全國平均の三倍にあたる人々が狭い漁場で、押し合ひへし合ひしてをります。従つて漁業としては最も進歩した方面、即ち養殖業はつとに、發達して年額百九萬圓、全國第六位の地歩を占めて居ります。

とくにカキとノリは全國で有名であります。

水産額

(昭和十二年單位千圓)

區分	總數	沿岸漁獲物	内地沖合		養殖	製造物
			遠洋	漁業		
全 國	五五四、二四三	三一九、六四九	八九、八八七	二八、九七四	二二五、七三三	
本 縣	八、七七一	四、二二三	二	一、九七〇	三、四七三	
同 順 位	—	一六	三四	六	一五	
比 全 國	100.0	三九.六	一六.二	四.九	三九.二	
率 本 縣	100.0	四七.九	九.三	二二.五	三〇.三	

牡蠣 「かきの廣島」か「廣島のかき」か。情緒豊かな「かき船」は廣島茶の味覺とよもに、全國の皆様すでに、お馴染み深いものがあるませう。年額は約五十六萬圓でありまして、産額品質ともに日本一たるは御説明申上げるまでもありません、最近の研究によりますれば、牡蠣はグリコーゲンを多量に含有して非常に榮養價値の高いものとされてをります。

海苔 「かき」とよもに古くから清流太田川の下流沿岸に養殖され廣島の味覺を誇るものゝ一つであります。風味や色澤も最近非常によくなつて参りましたけれども、淺草海苔にくらばまして、いま尙見劣りがいたしますが、産額も五十五萬圓に及び、全國第五位であります。目下品質の改良に、業者は懸命になつてをりますから、やがて淺草海苔にまけない廣島海苔の實現もま近にあると信じてをります。その他養殖として蛸等もあります。本來内海は淺海干潟が多く、かくの如く養殖業が發達したものと存じます。

製鹽 廣島灣を中心のカキ、ノリにたいしまして、備後、尾道、竹原、松永附近には氣候の關係

もありませうが、製鹽業が盛んでありまして、年額百七十三萬圓に達し四國及兵庫地方につぐ、製鹽地として著名であります。

この地方を旅行するものは、あの鹽田の特異な風景は目新らしいものゝ一つでありませう。
鯛 沿岸漁業では「柄の鯛網」能地の「浮き鯛」で知られた鯛があります。本縣の沿海にはいたるところに棲息してをりまして、年額六十二萬圓に上り、イワシ漁業とともに本縣沿岸漁業の双壁であります。

前に申しました「柄の鯛網」「能地の浮鯛」はまた、觀賞として毎年陽春の候各地から集ひよる觀光客は、算を知らずと言はれてをります。また豊田郡齊島附近の「いかり漁業」は人と鳥で營なまるゝまことに、和やかな自然の情景で有名であります。

【註】潮流の關係に依り海面上にイカナゴの群集する箇所「アビ」と稱する水鳥數百羽飛來し、これを喰はんとして「イカナゴ」を追ふ。イカナゴは恐れて海水深く沈下すれば、海底に居る鯛及鱈はこれを喰はんとしてイカナゴを追つて海水の中層に浮き上る。その時釣に裝せるイカナゴ及擬餌釣に喰付き釣獲せらる。

本漁業は遠く寛永年間に始まりたと云ふも明治十六年頃より現今の漁具を發明使用するに至れり。本漁業は全国中にも極めて稀にして本縣には九ヶ所あり。その主たるものは豊



ります。

淡水漁 本縣には河川や池や、沼が澤山ありますが、發達の度合がにぶくわづかに太田川の鮎が有名であります。

本縣には河川や池や、沼が澤山ありますが、發達の度合がにぶくわづかに太田川の鮎が有名であります。

田郡齊島の怒り網代なり。

怒り網代は春分より八十八夜に至る季節にして毎日少くは七、八十隻より多くは百數十隻の漁船來り鯛、鱈を釣獲し一ヶ年能く二萬圓を漁獲すと言ふ。

その他 イワシ・チヌ・サハラ・ボラ等の漁獲物もかなり多くあります。

煮乾鱈 煮乾鱈は所謂イリコと申しまして、日本人の忘れられない調味料の一つであります。年額八十六萬圓全國第五位と言はれます。

本縣の沿岸には、おしなべて漁獲されるやうであります。ことに清盛公の開墾で有名な音戸地方が中心漁場になつてをります。漁獲期になりますれば漁船に、これが製造用の「かまど」をしつらへ、現地製造とあじろを中心に移動して行くさまは、この附近における異風景の一つであります。製品は満・鮮・支那は勿論布哇・南米方面にまで多量に輸出されて居ります。

この外 水産製造物には、乾海苔、乾蝦等も有名であ

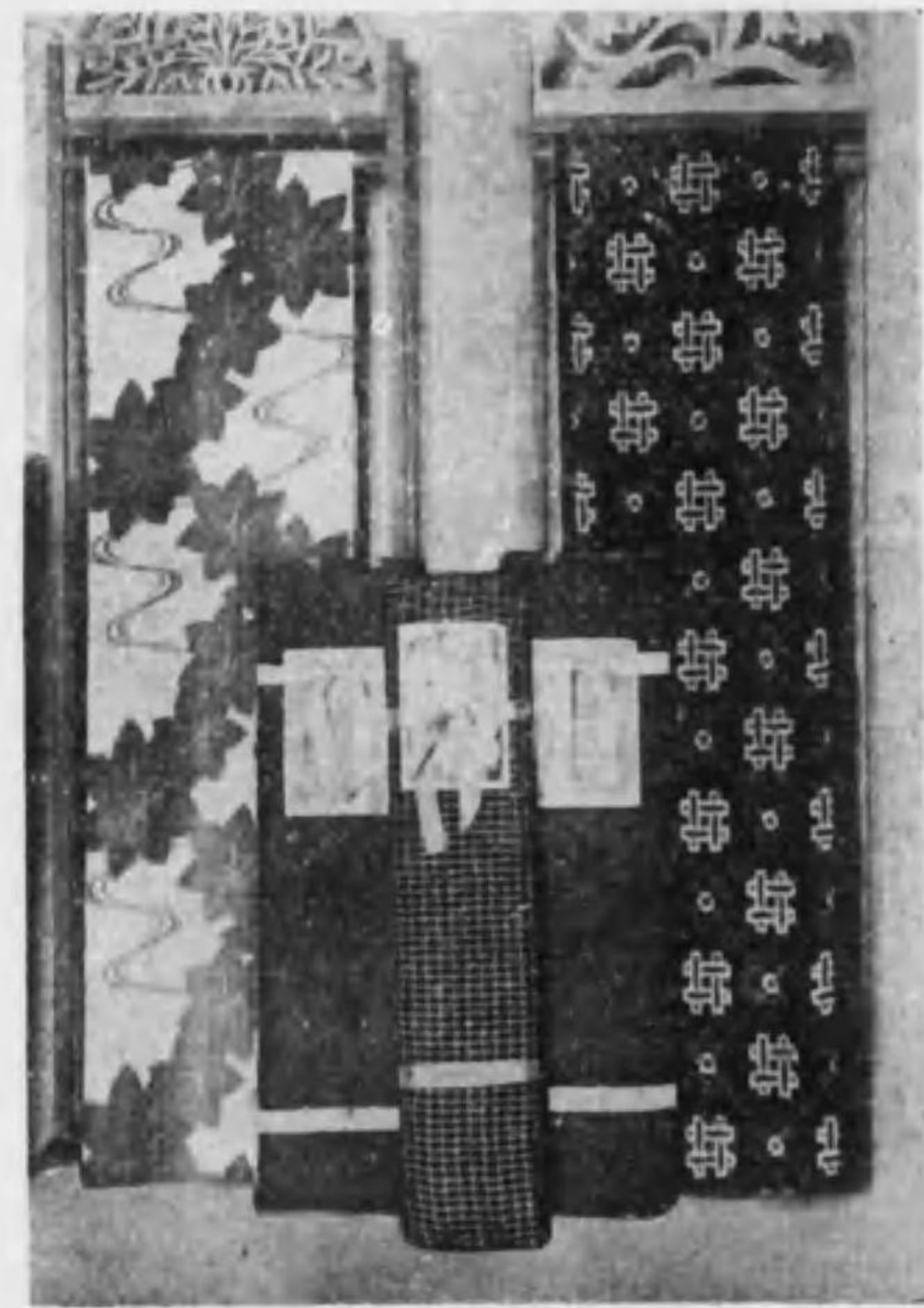
販路も亦滿洲及支那市場から南洋・印度・亞弗利加乃至中、南米と漸次商圏を擴充してまゐりました。

その外廣島の染地、タオル等全國的に知られてゐるものもあまたあります。

漁網地 本縣の漁網地の製網は、遠く寶永年間廣及阿賀地方に自家物乃至農家の副業として發達したもので、やうに傳へられてをります。その後音戸、須波の方面に普及されたのは、明治初年のやうであります。ことに最近本縣に「無結節製網機」の發明以來急速に發展を遂げまして、綿糸を原糸に用ふる「無結節」網を特徴といたします。これを他に比較しまするに量目をとらないのみならず、乾燥が早く、したがつて耐久性に富めるを特色としてをります。

販路は内・鮮・南洋・濠洲等であります。用途も在來の漁網用から袋物、運動具、寢具等漸次擴大せられてまいりました。年額百三十六萬圓を産し、全國第二位と稱せられてをります。

人造絹糸及ステープルファイバー 本縣の人造絹糸は、大正十年に帝國人造絹糸株式會社が、廣島市に工場新設を最初に、最近人絹及ス・フ界の好調機に際會して、その後人絹を専門にする帝國人洗絹糸株式會社は三原に、またス・フを専門とする新興人絹株式會社は大竹に、或は人絹ス・フ兼業の錦華人絹株式會社の廣島、第二帝國人絹株式會社は三原に、それ／＼工場を設置いたしましたして人絹は年額千五百八十一



萬圓ス・フは二百二十九萬圓にして全國第二、三位と申されてをります。本縣にかくの如く工場が續出されたのは、水質が極めて良好であり、しかも、豊富なる水量があり、且つ低廉なる動力乃至勞働力が容易に得らるゝのみならず、交通の至便なる餘澤と申されませう。

製綿 本縣には古くから棉の栽培が行はれ、したがつて製綿としてつとに全國に知られてゐたやうであります。廣島・福山を中心に蒲團綿、小袖綿、脱脂綿等を生産してをります。近縣は勿論滿、鮮、北海道地方を主なる顧客とし産額は三百三十三萬圓であります。

不二印で有名な、藤野製綿株式會社は近く奉天に工場を新設すべく進行中であるとはまことに雄圖と稱すべきであります。

紡織綿糸 明治初年に他府縣に率先創業せられたと申されませんが、産額一千三百四十六萬圓で、未だ全國的にその地位を誇るに足りません。主として太番手ものが生産され、一部縣内で消費されるほか、大阪、兵庫等に移出されてをります。

麻糸紡織 本縣には昔時より山間部地方に大麻の栽培が行はれ、したがつて麻織物と、もに、麻糸紡織もつとに、拓けてゐたやうであります。御調、安佐郡及廣島市を主産地として、年額一百六十三萬圓、全國第六位と稱されます。



メリヤス製品 昭和三、四年を最盛期に漸次下降状態にありますが、最近メリヤス工業組合の共同加工場設立等によりまして、軍手及靴下方面に漸次進出してゐるやうであります。年産額は五十七萬圓であります。

帆 布 沼隈郡浦崎地方を中心に農家の副業として創められ、「太糸木綿松右衛門帆布」と稱せられましたをみますれば、或はかうした先覺者によつて創始せられたかと伺はれます。はじめ鞆町を販路としておましたが、明治四十年頃には尾道を中心に、約六十萬圓餘の産額に達し販路も内地一圓に及んでゐたと言はれます。現今尾道、三原を主産地として約百六十萬圓の年産額を有してをります。

風呂釜 廣島風呂と申すよりはむしろ長州風呂として上方にはとふつてゐるやうであります。年額は約七十七萬圓であります。

人造砥石 一名金剛砥石と稱され、明治四十一年頃から輸入防遏品として、創案されたもので、現今國內需要の大部分を補給するに至りました。本縣の獨占的工業で、機械器具の研磨乃至切斷用として内地一圓及滿、支方面にも需用されてをります。廣島、吳を主産地として、年額百八十五萬圓であり、勿論全國第一であります。たゞ主要原料が外國産であることは、遺憾の點であります。



鑷 人造砥石にやゝ類似するものに、仁方の鑷をあぐることが出来ませう。品質産額六十二萬圓ともに全國の首位を占め、内地は勿論滿・支及南米地方にまで飛躍してをります。

縫 針 は年額百十七萬圓に及び、日本の九割五分は本縣に産すると申されます。滿洲・支那・香港・南洋・北米・中南米・シヤム・アフリカ等世界各國に輸出をみ、いたるところに、獨逸・英國製品を驅逐してゐる狀況であります。

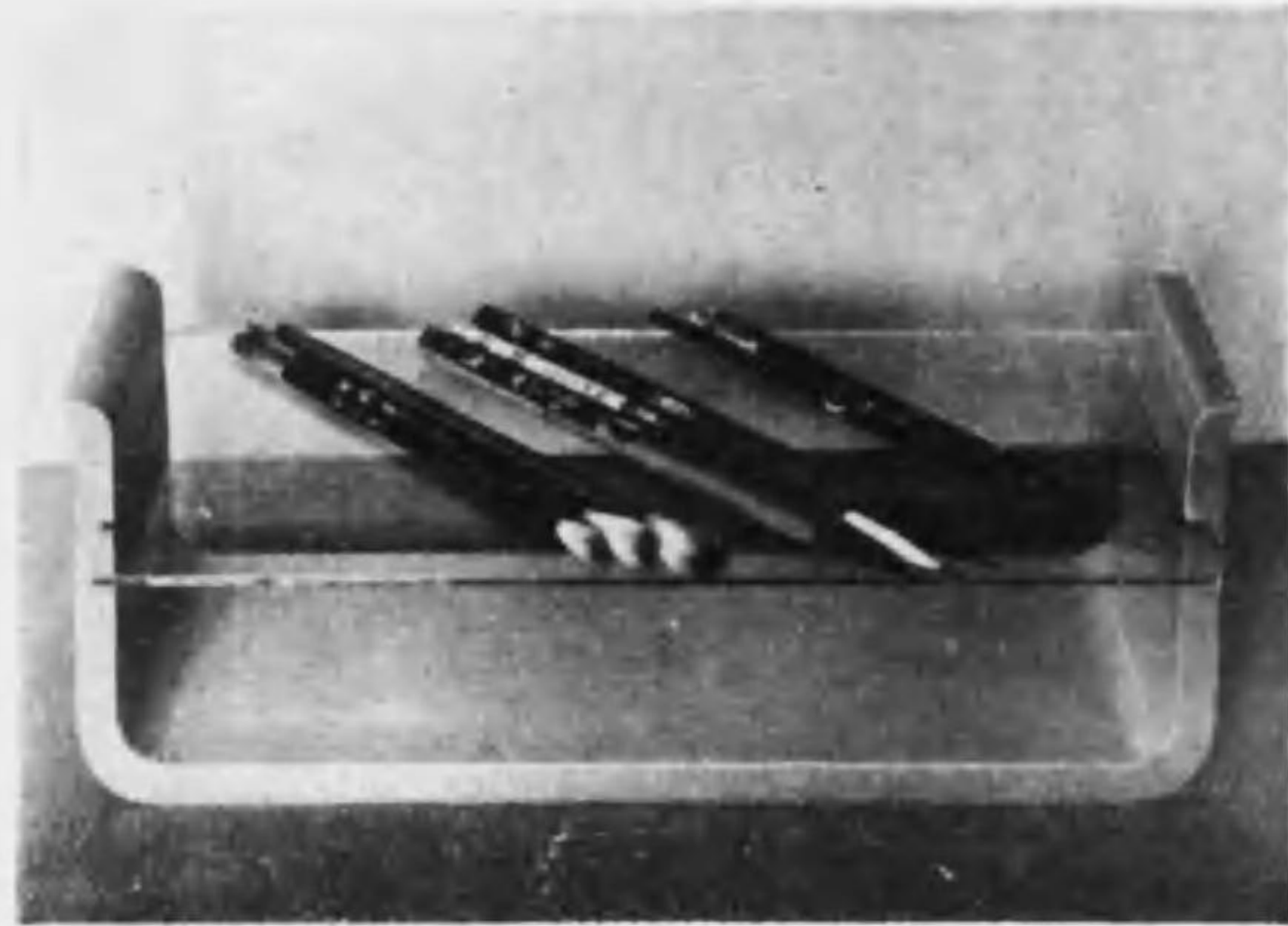
日本をして、世界の三大製針國の一として謳はしめますのは、全く廣島の製針業者の偉大なる足跡と存じてをります。

縫針のほか本縣には紡績針、ミシン針、釣針、荷造用針、著音機針等多種多様の針が出来ることが、つとに知られて居ります。

毛 筆 も亦本縣特産品の最たるもので、弘化の頃にすでに創められたと申されます。

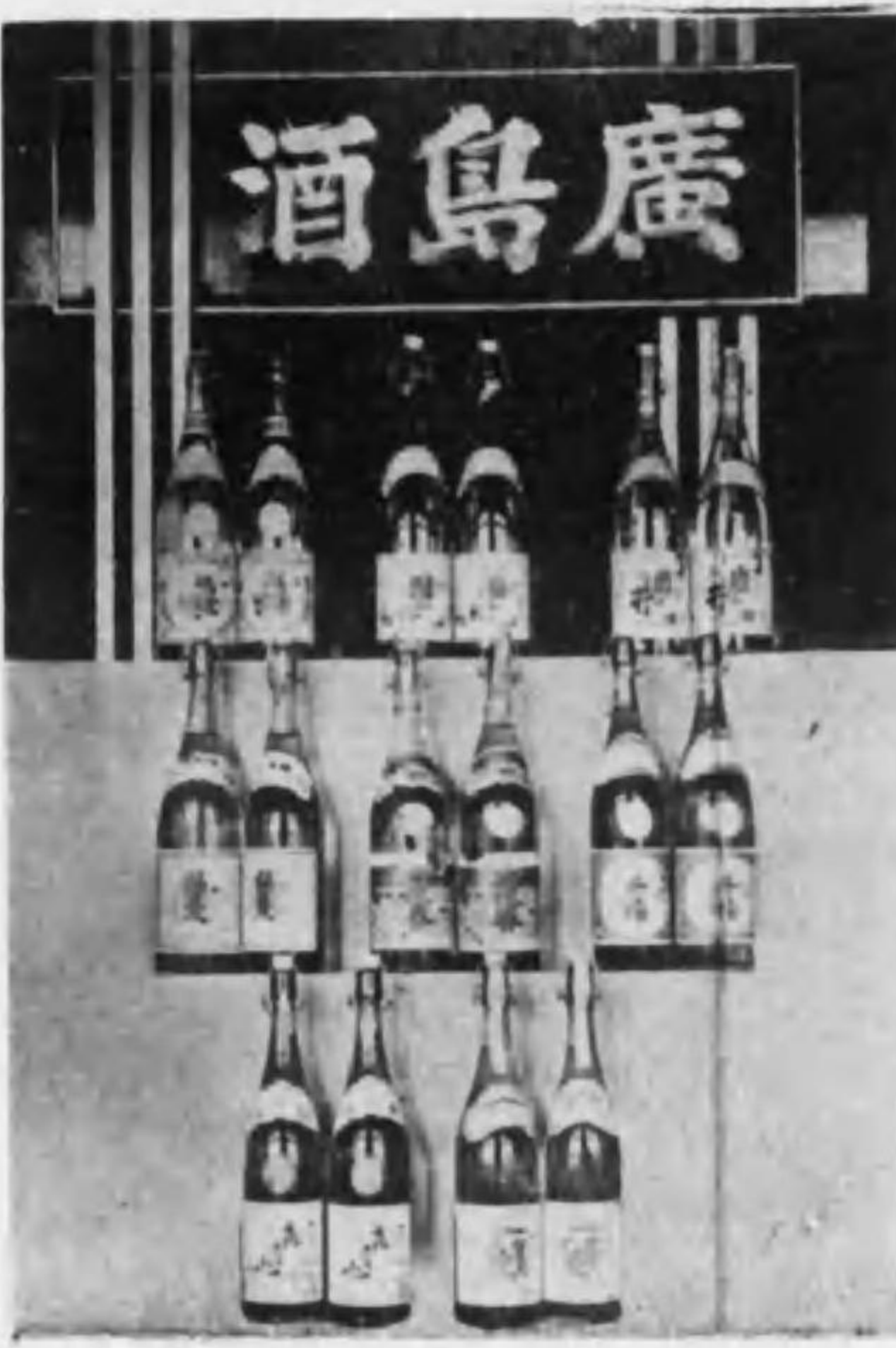
その老練なる技術はつとに知られ品質、産額ともに全國の首位を占めてをります。熊野・川尻町を主産地として、熊野町の如きは一町の生業としてゐる状態であります。

萬年筆 鑷と人造砥石、染料と塗料といった對照的な工業が、本縣にはかなり見受けられます。萬年筆もまた、毛筆の發達にも比すべく、大正八年頃金ペンの生命イリジュームの先附加工に成功してから、異常なる發展をなし、年額百二十五萬





圓全國第一位を誇り得るやうになりました。内地はもとよ
 り満・支・及南洋地方に輸出されて居ります。
 この外金ペン、鐵ペン、書銀も亦有名であります。
 毛筆ともにも本縣獨特の發達をなしたもので、産
 地安藝郡矢野町民の大多數はこれを生業としておりまして
 年額四十五萬圓であります。
 その起原は遠く神功皇后三韓征伐のときに胚胎せりと申
 し傳へております。



清酒 造石数は二十七萬石で兵庫につ
 ぐ全國第二位であります。賀茂・御調郡・吳
 市を中心に縣内いたるところに醸造せられて

をります。その芳醇なる質と、その温雅なる風味は、古來より著名な灘の銘酒を凌ぐものがあります。賀
 茂鶴・福美人・白牡丹・龜齡・醉心・千代乃春・千福・三吉正宗等の名は、つとに京阪、東都の酒客に知
 られ、千福・千代乃春は滿洲の醸造界を牛耳つてをります。
 言はむすべせんすべ知らに
 極りて貴きものは酒に—あるら—

— 大伴 赤人 —

醬 油 清酒ともにも縣醸造試驗場において、鋭意
 研究指導せられ、全國品評會には常にその聲價を認められ
 てをります。年額四百五十六萬圓で、賀茂、佐伯、沼隈、
 吳が主産地とされております。

燒 酎 最近技術の改善と、經營の合理化によりま
 して、すばらしい發展をしてきました。年額三百三十萬
 圓、全國第四位であります。

罐 詰 明治の初め佛國宣教師の勸奨によりまし
 て、發祥したと傳へられてをります。その後日清、日露、
 北清事變等を経て急速な發達をしてまわりました。中にも
 牛肉罐詰は全國の七、八割を産し、大休牛肉罐詰といへば
 レツテルの如何にかゝはらず、廣島産のものともみて差支へ
 ありませんでしやう。そのほか蜜柑罐詰は本縣の創案であ



りまして、前にも申しましたやうに内地は勿論、歐米地方によく輸出されてをります。また果實罐詰、蔬菜罐詰は本縣の誇り得るものゝ一つであります。罐詰類は總じて年額五百四十一萬圓であります。をります。



削 鱈 福山市を主産地として、煮干鱈とよもに、美味と滋養に富みしかも、値段の低廉によりまして知られてをります。一般家庭の調味料の随一であります。

販路は内、臺、鮮及滿洲地方であります。年額二百三十三萬圓全國第一位の生産額を有してをります。

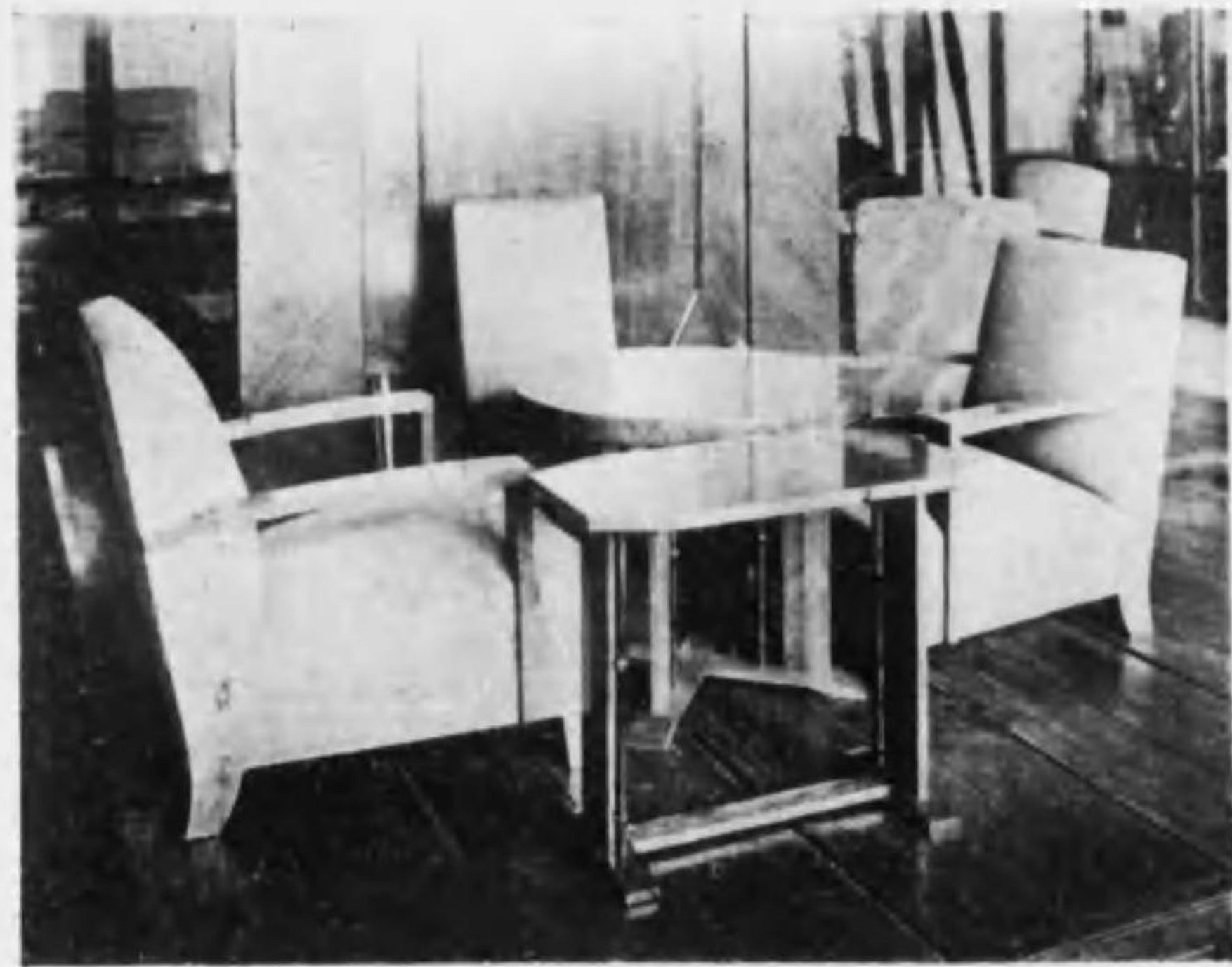
ゴム製品 世界大戦のため輸入杜絶に刺戟され急速に發達したものであります。うちヒールものはおもに、滿支を最大顧客としてをります。また總ゴム草履は本縣の特産であります。その耐久力と手軽さは全國農村方面によく知られてをります。その外靴、タイヤ、玩具、薄もの、硬質ものなど各種の製品がありますが、中にもスポンヂ製「みさゝ枕」の名は、つとに知られてゐるものゝ一つであります。ゴム製品の年額は五百三十四萬圓で全國第三位と稱されます。

染料 ゴム製品とおなじく歐洲大戦の勃發により、獨逸品の輸入杜絶のため、備後機業地を中心に發達し

たもので、鹽基性染料バイオレットは世界的商品と申されてをります。

年額三百二十九萬圓で、全國第三位であります。内地は勿論、鮮、滿、支にも相當輸出されております。

塗料 廣島市を主産地とし、船底塗料を専門に七十二萬圓の生産額があります。



和洋家具類 洋家具は廣島市を中心に、年々七、八十萬圓を産し、また和家具の廣島産等或は府中産等は世にはやくからよく知ら



れてをります。百二・三十萬圓の産額を持ち、
いづれも質の堅牢と價格の低廉とは、つとに世
人のあまねく知るところであります。

廣島はこの外、眞宗用佛壇の産地として、そ
の黄金色とゞもに有名であります。

履物 沼隈、安佐郡を主産地としてこ
とに、松永の栓下駄は全國一を誇つております。

宮島細工 天下の勝景地嚴島の土産ものと
して、汎く知られてをります。ことに宮島杓子
は召し取るに通じまして、吉祥と實用價値を併
有した、誠に天下一品であります。この外社
景、宮島さんの寶物などを刻みました盆類は、
觀光客になくはならないものゝ一つでありま
せう。

工藝品 前にも申しましたやうに、本縣は比較的工藝品に乏しいやうであります。宮島の彫刻、
舊藝州藩主の奨励によつて創作されましたと申す銅虫製品、この外漆器・陶磁器・貴金屬製品など、あま
たの好事家に歡迎されるものもありません。

殺虫劑 本縣は原料除虫菊の産地の關係もありまして、フマキラー・センメツ・ケイミス・パリ
ートルなどの殺虫劑の名はつとに、各地に御馴染ふかいいものがあります。
年額百五十萬圓と申すから多分全國第一であります。

この外蚊取線香などもあります。

軍需工業 本縣には陸軍の廣島、海軍の呉及廣と申しませうか二大軍都を持つてゐる關係上、官業工
場もたくさんありまして、自然この影響をうけ中にも機械器具工業乃至食料品工業は非常な恩恵をうけ、
民間工業の刺戟發達を促進いたしましたことは至大なるものがあります。

即ち各種の罐詰・パン類や、鏝とか、人造砥石・自動三輪車・鑿岩機その他各種鐵機械器具等の軍需工
工業の展開は全く右に負ふものと申されませう。

其の他 このほか古くから知られてゐるものには本場關戸蚊帳・廣島の賣藥、尾道・鞆・草津の蒲
鉾・竹輪や、廣島の和傘・廣島茶、それに尾道の酢・錨・鞆の釘、大竹の和紙、尾道市外の袋物閉閉用金
具、福山の菌及麥稈細工等で有名であります。

また最近の工業としては三原のオートライト即ち人造樹脂製品があります。電氣に對する絶縁性乃至耐
酸性をもち、各種の建築材料及器具用品として重寶がられております。また割れない硝子で有名なプリ
スライトもあり、千年も腐蝕しないと申される防腐電柱は、年額四百萬圓と稱されます。

土産もの この外土産ものとしては嚴島の宮島細工・廣島の柿羊羹・頼山陽せんべい・鞆の保命酒・
福山の柿餅・忠海の湖せんべい・ちゞぼ焼・三次の泡雪、各地の銘醸における冷川酒などあまたありま
す。

商 業

外國貿易 本縣の對外貿易に關しましては總輸出入額につきまは明確な統計資料がありませんか
ら、自然廣島港及尾道、糸崎港の通關貿易につきまして申したいと存じます。

本縣は由來海外移植民の旺盛なところでありますが、商品貿易の方面は極めて緩漫のやうであります。



即ち滿洲事變前までは誠に遅々たるものでありますが、幸にこの事變を契機に異常なる飛躍をなして参りました。

本縣貿易の消長 (指數)

區分	輸出		輸入		合計	
	本縣二港	本邦	本縣二港	本邦	本縣二港	本邦
昭和六年	100	100	100	100	100	100
昭和十三年	1,70X	三四	110	三二六	二七四	二四五
同金額	九、三三二	二、六八九、六七七	二四〇、〇一四	二、六六三、三四四	二二三、三四六	三、七三三、九九六

(單位千圓)

これをわが國の對外貿易の趨勢と比較しますれば、本邦貿易のもつとも、萎縮状態にありました昭和六年即ち滿洲事變當時を假に一〇〇といたしますと、昭和十三年の輸出は、本邦の二三四に比し、本縣は約十七倍と申すことに、驚異的な躍進であります。

なほ本縣管内税關を通ずる直輸出の仕向先は全額の九割八歩が所謂圓プロツクであります。しかるにひるがへつて、輸入貿易を觀ますに、昭和六年に比し本邦總額の三一六に對し、本縣は二一〇と言ふ現象でありまして、畢竟するに本縣におきましては、外國原料を利用する再生産力に乏しく、且つ貿易設備等の不備のため自然、阪・神經由を便宜とする關係等に囚るものと思ひいたします。この關係はまた輸出貿易についてもいひ得る現象でありまして、比較的近接市場の滿・支に對しては直接貿易が行はれてゐるやうであります。その他の市場にはほとんど、阪神あるひは横濱在住の商館を経て輸出されてるやうに承はつてをります。

即ち私共がみます本縣輸出貿易推定額は昭和十三年に二千七百十三萬圓でありまして、約六割が、阪・神港を經由し、三割四分が管内二港から輸出せらるゝ状態で、大部分が阪・神經由による間接貿易のやうであります。

廣島縣主要商品輸出推定額

(昭和十三年單位千圓)

種別	經由別		總數
	阪・神港經由	廣島・尾道・糸崎港經由	
金額	一六、二七五	九、三三三	二七、一〇八
比率	六〇・〇	三四・四	一〇〇・〇

卑見から申すならば貿易業態の過渡時代としては已むを得ない現象であります。すくなくとも對滿・支・南洋の近接市場にありましては、直接貿易が行はるゝやうに生産彈力乃至凡ての貿易機構を左様の方向に仕向けて行き度いものと存じてをります。幸に縣におきましては大正十五年から大連線の補助航路を開始いたし、またその外にも大連・青島・天津・北鮮航路等の廣島に寄港するものがあります。又現に對滿・支その他の市場開拓の爲め、大連・奉天・新京・ハルビン・天津・上海及神戸に縣産業獎勵館の事務所を開設いたしました。貿易事情の調査乃至取引の斡旋をなさしめ、或は不斷見本市商談會などを開きまして、取引の増進に努める等販路の擴張のため凡る努力を拂つてをります。

廣島縣(廣島・尾道・糸崎)主要商品貿易額

(昭和十二年單位千圓)

品名	輸出		輸入	
	金額	品名	金額	品名
蠶	六七九	紙	一五〇	礦
表	製	品	油	一落
花	生	三		

罐詰	酒	針	縫太及割	丸太及割	藥材・化學	製藥及調	打藥及調	機械及同	木製	煎魚	海苔	礦物及同	綿布	麥酒
八二七	九〇一	九〇一	一六九	一八五	一八五	五五	二五九	一五	一〇三	七二	四五	四七	六九	六九
捲	履	襪	襪	襪	襪	襪	襪	襪	襪	襪	襪	襪	襪	襪
二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
石	鐵	棉	銑	大	生	洞	豆	小	穀	荏	苧	綿	藥	藥
一、九四七	一、〇〇五	一、〇〇五	二、〇〇八	四六四	六四	一三	三〇〇	一七一	二〇五	八八	二〇五	二〇五	二〇五	二〇五
高	皮	骨	耐	亞	其	合	計	計	計	計	計	計	計	計
一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三

國內商業 本縣は瀬戸内海の要衝を占め、はやくから海陸の交通がよく開けて居た關係商業都市は決して少くはありません。ことに沿海部にはいたるところに船舶の碇泊に適する天然の良港がありまして、阪神・關門或は高松・今治・多度津・別府等への航路を幾線となく持つてをります。特に尾道は古來から内海三要港の一と謳はれ、海産物・肥料・米穀等の問屋が今尙軒をつらねてその繁昌を誇つてをります。徳川時代の享保年間に書かれた、筑紫紀行によりますれば、この尾道は「町通り家居のさまなど上方に替ることなし。商家はよろづの間屋多し。肴の市、野菜の市たつ。穀物・干鰯・棉種・塩などつめる船ども諸國よりおびたしく輻輳す云々」と。その股賑の様が書かれてありますが、いま尙その繁昌ぶりは續いてゐるのであります。

又主都、廣島市は人口三十四萬を擁して、中國地方の商業の一大樞軸と申していゝでしやう。この外軍港の呉市、工業の福山市、人絹の三原市と言つた新興都市もあります。

商品別移出額

區分	總數	農産	畜産	林業	水産	鑛産	工業
移出	三、四、三六六	三、六、四二二	七、二二六	一、二七二	一、三、九九八	一、四九二	二、〇四、一三六
移入	三、〇八、九七九	四、六、四七七	七、七〇三	一、〇八二	二、五、一〇七	一、三、五八三	一、六六、八七〇
出入(△)超	五、四、〇一七	△一〇、〇四四	△四七七	五三六	△二、一〇九	△二、一三三	三、〇、〇二

(單位千圓)

會社

なほ各産業部門に於ける資本の投資分野を商會社についてみるに、本縣にも資本の集中傾向と、個人企業から法人組織へまた、商業投資より工業投資への推移が伺はれ、ことに最近人絹・フ乃至軍需工業關係は巨大な資本を擁してゐるやうであります。

産業別會社投資額

(昭和十一年金額單位千圓)

營業別	會社數	出資額又公稱資本金	積立金	合計	投資割合
總數	一、六八二	二六八、七二七	二八、三三六	二九七、〇六三	一〇〇.〇
農業	一一	六一九	三	七二二	〇.二
鑛業	八	一、三三二	〇	一、三三二	四.七
工業	六六三	二〇五、一五二	二〇七、八	七二二、〇六	五、三、五

商	業	七九四	八七、一〇八	一七、五九三	一〇七、四〇一	三〇、〇
運	輸	一七五	二八、一三二	七〇〇・二	三、一三六	一〇、〇

金融 本縣は貯金の多いことで有名であります。銀行預金は三億九千五百五十二萬圓に及んでをります。縣民の勤勉と貯蓄心の旺盛なことを物語るものであります。しかし一方貸出はわづかに壹億三千四百五十七萬圓に過ぎません。概して縣民は企業心に乏しく、且つ資金の運用につたないため自然銀行利子に居食する偷安と申しませうか、そうした氣風にも原因いたしませう。従つて藝備・吳・備南・三次・備後及合同貯蓄の土着銀行は別として、三井・第一・安田・三和・住友等東京・大阪の大銀行がこの地に支店を設けて預金吸収をされてゐるやうです。

銀行預金及貸付狀況

(昭和十三年單位千圓)

年次	土着銀行		他府縣銀行支店	
	預金	貸付	預金	貸付
昭和十三年	二〇三、八七四	七九、二三七	一八七、六五三	五五、三四一
昭和十一年	一四七、九八二	八一、四三二	一九六、二五七	四九、一八七
昭和十年	一五七、四〇六	八五、三三九	一八八、一二一	四二、五八〇
昭和六年	一一九、五八〇	九二、一三二	一四三、七三四	三七〇、七七一

かくの如く資金は、有り餘るほどあり。且つ清くして豊富なる水量、低廉なる動力、優秀なる勞働力、しかも海陸交通の至便なる地歩を有してをりますし、所謂鬼に金棒とでも申しませうか、この好條件を活用して都市にありては大工業の勃興を促進せしめて生産力の擴充をはかり、うちには農漁村の過剩勞力を吸収せしむるとともに、そと海外貿易の伸張を期し、ますく國力の増進に寄與せねばならないと痛感する次第であります。

廣島縣の主要物産

(昭和十一年單位千圓)

産業別	生産額	比率		
		昭和十一年	同十年	同九年
農産	七五、二七四	二〇・二	二一・一	二四・六
畜産	八、八四〇	二・九	二・八	三・〇
蠶産	四、六九三	一・二	一・三	一・二
林産	九、一二八	二・四	二・四	二・一
水産	七、六六七	二・〇	二・二	二・九
鑛産	一、〇三三	〇・三	〇・三	〇・四
工産	二六四、〇五六	〇・七	六九・三	六五・八
總數	三七〇、九五九	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

(昭和十一年單位千圓)

388
410

昭和十四年三月二十日印刷
昭和十四年三月三十日發行

發行所 廣島市榮町一五
廣島縣產業獎勵館

印刷者 佐野克己
廣島市中島本町八番地

印刷所 佐野印刷所
廣島市中島本町八番地

終

